

林業・木質バイオマス発電の 成長産業化に向けた検討

令和2年8月27日

第2回林業・木質バイオマス発電の
成長産業化に向けた研究会

 **JForest** 全国森林組合連合会



(1) 地域活性化の視点が重要

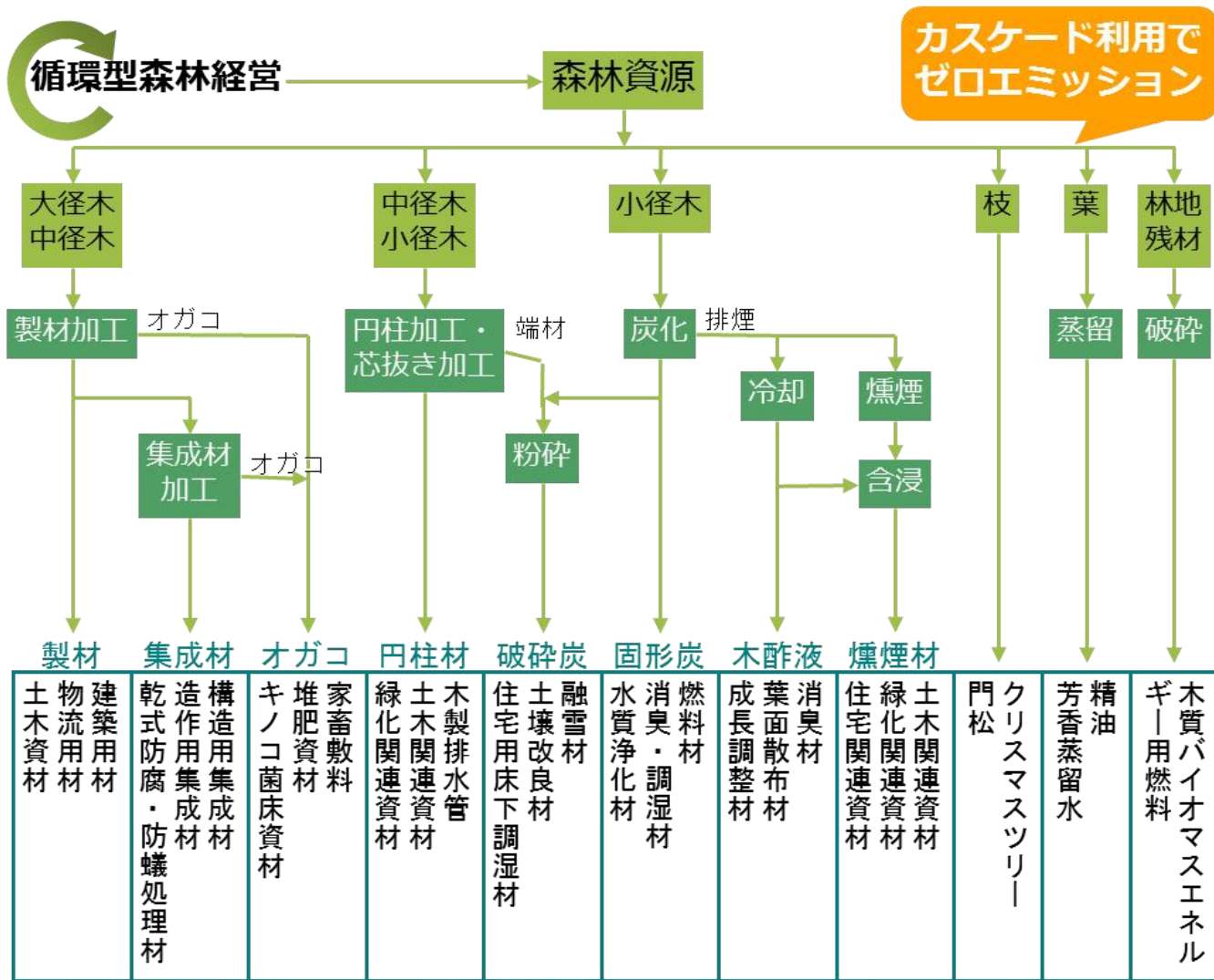
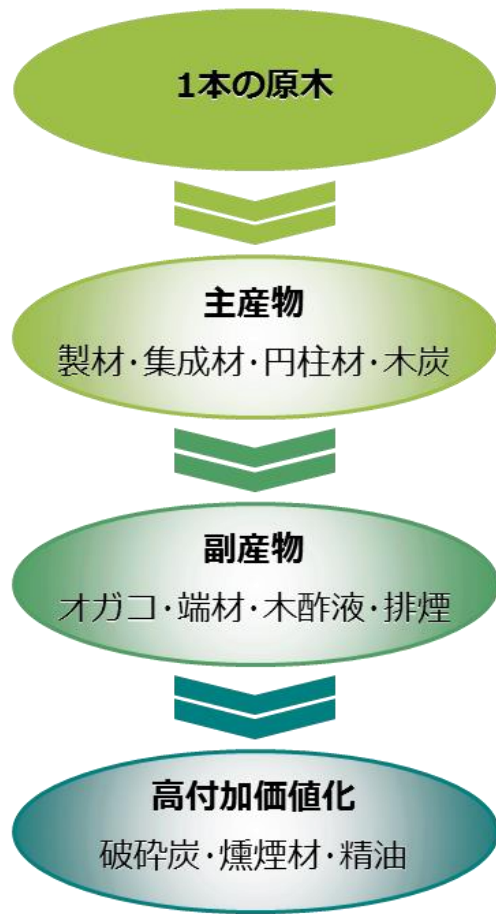
- 林業・木質バイオマス発電の成長産業化は、地域経済の発展に寄与するものであるが、さらに森林整備による国土保全等森林の機能を高めることにつながるなど、地域における様々な役割を評価し、取組を進めるべきもの。
- 発電や熱利用といった取組に加え、その地域内の共生や地域づくりに欠かせないインフラ整備、土地利用等の基本となる制度について、国・県・市町村での効果的運用に期待したい。

(2) 森林の持続利用と林業収益性向上



- 木質バイオマス利用にあたっては、持続可能な森林資源の利用につながるよう、山元の収入を最大化できるカスケード利用を基本とすべき。
- カスケード利用において未利用となっている根株・枝条のような林地残材をより効率的に利用することや副産物関連も活用する仕組みを構築すべき。
- また、持続可能な森林資源の利用や公益的機能確保が担保できるのであれば、燃料材の育成と収穫に主眼を置いた林業経営も価値があると考えます。

森林資源のカスケード利用



カスケード利用で
ゼロエミッション



出典：平成30年7月26日 第12回森林組合トップセミナー 下川町 谷町長講演資料より

(3)木質バイオマス燃料品質について



- 木質バイオマスのエネルギー利用にあたっては、燃料材の品質、特に水分率が重要であることは認識。
- 品質が安定した燃料材が適正に流通・取引されるべきだと考えているが、その対応は供給側のみならず需要側も一緒になって取り組んでいただきたい。
- 例えば、水分率を低下させるための取組として、山土場ありきではなく、需要側も関与する中間土場における管理など。
- また、品質向上の努力が適切に取引価格に反映されるべきである。

(4) 再造林の確実な実施



- 再造林の実施は木材を安定的に供給していく上で重要であると認識。
- 全森連も農林中央金庫と共に低コスト再造林プロジェクトを立ち上げ、コウヨウザンを低密度で植栽し、コスト削減・伐期短縮に向けた実証実験を行うこととしている。
- 再造林の実施は、森林政策での対応が重要であるが、木質バイオマスが再生可能エネルギーである以上、利用にあたっては、再造林が行われるよう配慮するべき。

(5) 熱利用の推進について



- 木質バイオマスの熱利用を推進することは、欧州の先進事例によると、中山間地等地域の活性化につながると考える。
- 国内での普及が十分でないのは、地域において住居が集合していないこと、集中暖房方式ではないこと、大きな熱需要先がないこと等があると聞いた。
- 課題の克服により、地域における熱利用が普及し、環境と調和した豊かなまちづくりに貢献できるように検討いただきたい。